

こえに だして よみましょう。

いちようの実 ⑧

みやざわけんじ
宮沢賢治

ひがし そら しろ

東の空が白くもえ、ユラリユラリとゆれはじめました。

おっかさんの木はまるで死んだようになってじっと立っています。

ひかり

きん や

いちど

とつぜん光のたばが黄金の矢のように一度にとんできました。子どもらはまるでとびあがるくらいかがやきました。

きた

こおり

かぜ

北から氷のようにつめたいすきとおった風がゴーツとふいてきました。

「さよなら、おっかさん。」「さよなら、おっかさん。」子ども

いちど

あめ

もらはみんな一度に雨のようにえだからとびおりました。

きたかぜ

北風がわらって、

「ことしもこれでまずさよならさよならっていうわけだ。」

といいながらつめたいガラスのマントをひらめかしておむうへいってしまいました。

ひさま

ほうせき

ひがし

そら

お日様はもえる宝石のように東の空にかかり、あらんかぎりのかがやきを悲しむ母親の木と旅にでた子どもらとに投げておやりなさいました。

